

インフルエンザ流行情報について（第20報） 〈最終報〉

●インフルエンザ流行情報

本県における平成30年第15週(4月9日～4月15日)のインフルエンザ定点当たりの患者報告数は0.70(第14週は1.18)となり流行開始の指標である1.0を下回りました。全ての地域で減少し、ひたちなか保健所と竜ヶ崎保健所を除く10保健所で定点当たりの患者報告数が1.0を下回りました。

なお、茨城県衛生研究所において、平成29年9月4日から平成30年4月15日までの期間にインフルエンザウイルスを検出した184検体の種類の内訳は、AH3(A香港型)が43検体(23.37%)、AH1pdm09が51検体(27.72%)、B型が89検体(48.37%)、AH3(A香港型)とB型の混合感染例が1検体(0.54%)です。

[昨シーズン全体で AH3(A香港型):75.6%, AH1pdm09:8.1%, B型:16.3%]

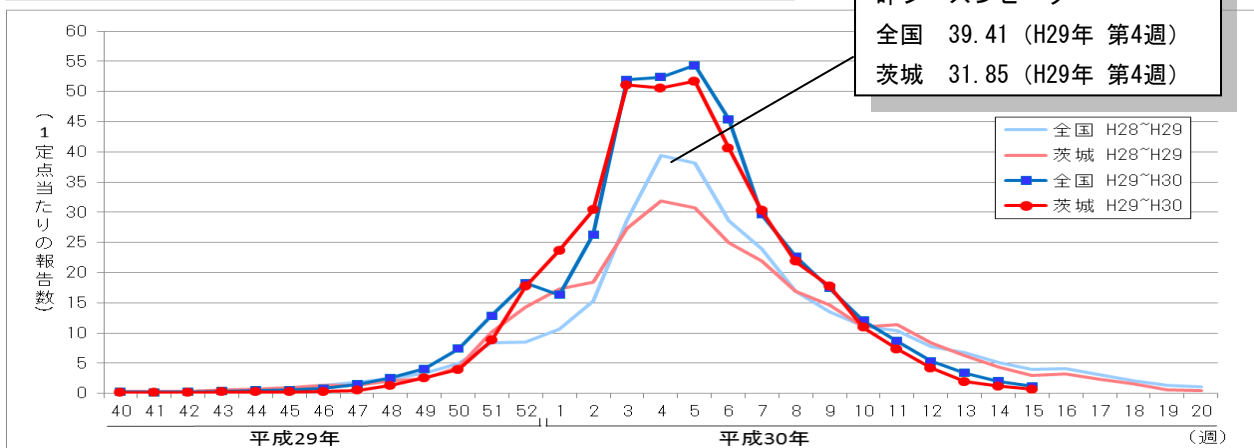
インフルエンザの流行情報および流行マップについては、県全体の定点当たりの患者報告数が1.0を下回り、全保健所管内で定点当たりの患者報告数が10.0を下回っているため、今回を以て掲載を終了します。

なお、インフルエンザの学級閉鎖等の措置については、引き続き届出があった場合のみ、感染症情報センターのホームページに掲載します。

【茨城県感染症情報センターホームページURL】

<http://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/eiken/idwr/index.html>

感染症発生動向調査(定点当たりの患者報告数の推移)※



※値は速報値です。今後数値に若干の変更が生じる場合があります。

インフルエンザの流行に関する警報・注意報について

- ① 定点当たりの患者報告数が基準値(注意報: 10 警報: 30)を超えた保健所区域には「地域注意報」又は「地域警報」を発令します。また、県全体において定点当たりの患者報告数が基準値を超えた場合には、「県全域注意報」又は「県全域警報」を発令します。
- ② **注意報**：流行の発生前であれば今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性があること、流行発生後であればその流行がまだ終わっていない可能性があることを示します。
警報：大きな流行の発生・継続が疑われることを示します。
なお、警報の解除は終息基準値(10)を下回ったときになります。

《各保健所管内のインフルエンザ流行状況》

15週の値は速報値です。今後数値に若干の変更が生じる場合があります。

保健所	調査期間： H30. 4. 9～H30. 4. 15 (第15週)			調査期間： H30. 4. 2～H30. 4. 8 (第14週)		
	定点数	患者数	定点当たりの患者報告数※	定点数	患者数	定点当たりの患者報告数※
水戸	16	7	0.44	16	10	0.63
ひたちなか	8	19	2.38	8	6	0.75
常陸大宮	8	7	0.88	8	10	1.25
日立	11	5	0.45	11	9	0.82
鉾田	5	2	0.40	5	10	2.00
潮来	8	1	0.13	8	7	0.88
竜ヶ崎	14	22	1.57	14	24	1.71
土浦	13	6	0.46	13	19	1.46
つくば	10	3	0.30	10	15	1.50
筑西	10	4	0.40	10	4	0.40
常総	8	1	0.13	8	5	0.63
古河	8	6	0.75	8	22	2.75
県全体	119	83	0.70	119	141	1.18

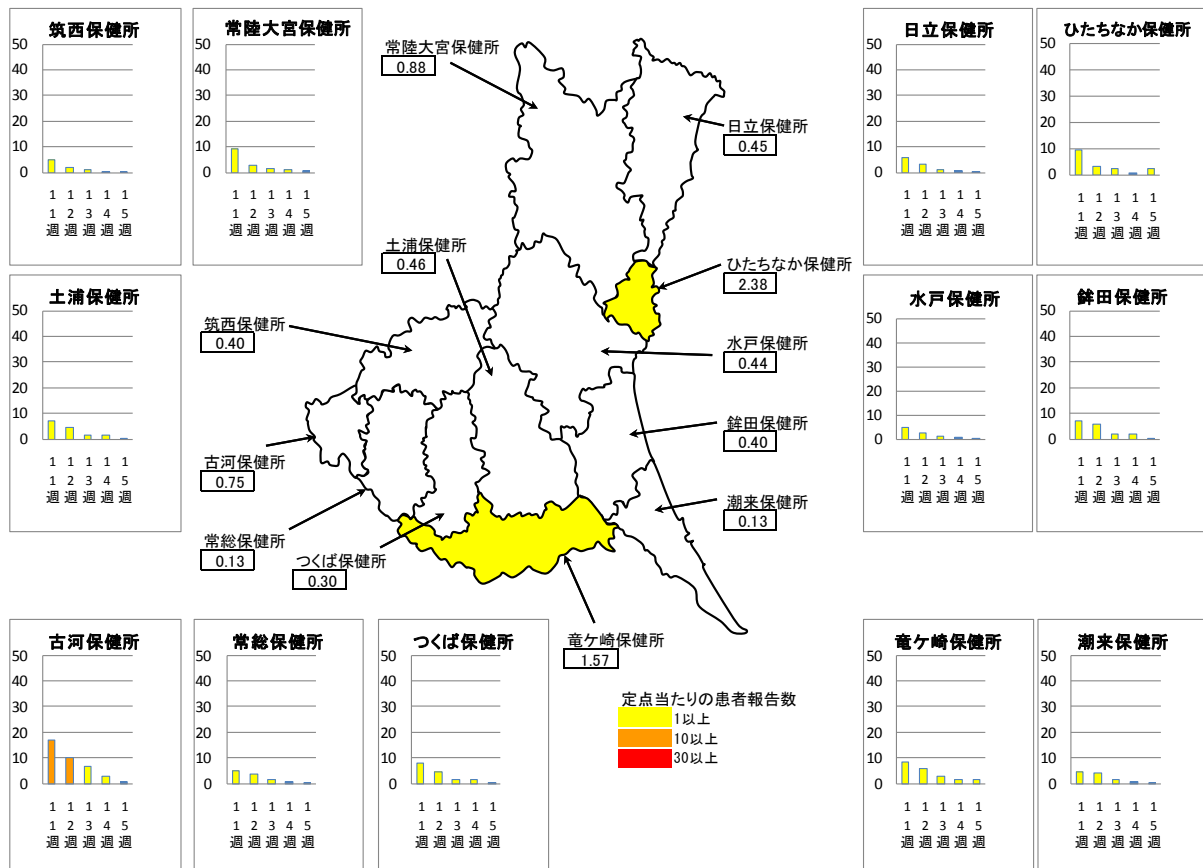
※ インフルエンザの定点当たりの患者報告数は1定点あたり1週間の平均患者数

インフルエンザの定点当たりの患者報告数 = $\frac{\text{インフルエンザ定点において1週間の間にインフルエンザと診断した患者数}}{\text{インフルエンザ定点数 (県内に119医療機関 [平成30年4月15日時点])}}$

・ 定点当たりの患者報告数が 1.0 を超えると流行期に入ったと判断します。

《茨城県内のインフルエンザ流行マップ》

● 2018年第15週（4月9日～4月15日）および過去4週間のインフルエンザ流行状況



※値は速報値です。今後数値に若干の変更が生じる場合があります。

茨城県のインフルエンザによる入院患者の概況

期間(報告週) 2018年15週

(1)入院患者の届出数

年齢別 \ 期間		3/12~3/18 (11週)	3/19~3/25 (12週)	3/26~4/1 (13週)	4/2~4/8 (14週)	4/9~4/15 (15週)	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	合計 ※1
入院患者数 ※1		20人	12人	4人	1人	5人	0人	0人	9人	30人	268人	276人	96人	6人	685人
年齢別内訳	1歳未満		1人							2人	5人	5人	2人		14人
	1~4歳		1人			2人			2人	3人	13人	17人	8人	2人	45人
	5~9歳	1人	1人			3人			2人	7人	12人	11人	3人	3人	38人
	10~14歳		1人						1人	1人	4人	5人	2人		13人
	15~19歳									1人	4人	2人	1人		8人
	20~29歳										2人	3人	1人		6人
	30~39歳	1人								1人	4人	1人	2人		8人
	40~49歳		1人						1人	2人	13人	9人	4人		29人
	50~59歳	3人	1人								14人	12人	6人		32人
	60~69歳	2人								1人	31人	31人	5人		68人
	70~79歳	4人	2人		1人				1人	4人	62人	56人	17人	1人	141人
80歳以上	9人	4人	4人						2人	8人	104人	124人	45人	283人	

※1 基幹定点医療機関(県内13か所)からのインフルエンザによる入院患者の届出数。

※ 2017~2018シーズンは2017年36週(9/4~9/10)からスタートしています。

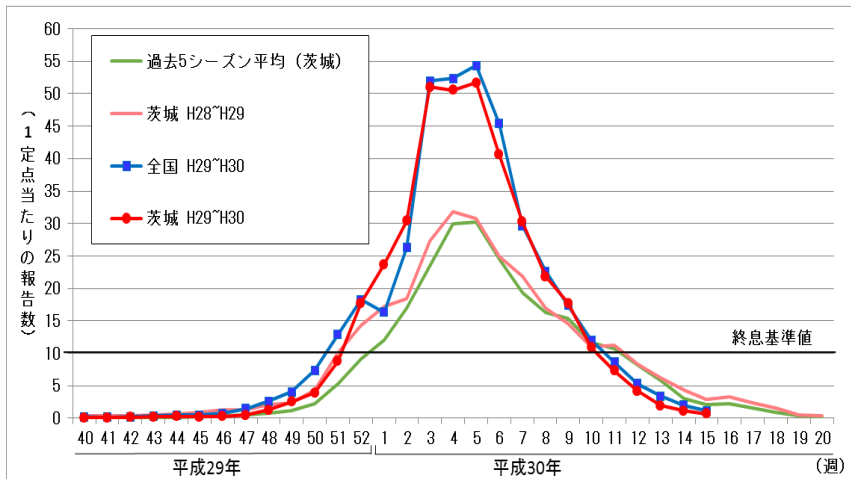
(1)入院患者の週別推移(全国)

年齢別 \ 期間(報告週)		2018年11週	2018年12週	2018年13週	2018年14週	2018年15週	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	合計 ※2
入院患者数 ※2		625人	429人	311人	211人	204人	64人	109人	350人	1,782人	7,522人	6,933人	3,242人	415人	20,417人
年齢別内訳	1歳未満	19人	13人	9人	5人	4人	3人	6人	15人	92人	241人	217人	92人	9人	675人
	1~4歳	73人	34人	27人	21人	24人	10人	19人	56人	287人	823人	692人	291人	45人	2,223人
	5~9歳	25人	26人	20人	6人	15人	9人	9人	53人	287人	653人	606人	185人	21人	1,823人
	10~14歳	22人	5人	6人	2人	2人		3人	14人	88人	237人	224人	84人	4人	654人
	15~19歳	4人	4人	4人		1人		3人	6人	23人	56人	77人	25人	1人	191人
	20~29歳	5人	7人		3人			1人		20人	86人	65人	29人	3人	204人
	30~39歳	7人	5人	5人	4人	3人	3人		5人	41人	116人	98人	39人	7人	309人
	40~49歳	12人	6人	5人	8人	4人	3人	1人	7人	43人	210人	158人	73人	12人	507人
	50~59歳	32人	14人	9人	8人	5人	1人	2人	14人	48人	331人	256人	130人	13人	795人
	60~69歳	50人	42人	33人	26人	19人	6人	10人	23人	163人	803人	647人	302人	45人	1,999人
	70~79歳	110人	71人	54人	45人	33人	11人	21人	52人	254人	1,328人	1,250人	595人	78人	3,589人
80歳以上	266人	202人	139人	83人	94人	18人	34人	105人	436人	2,638人	2,643人	1,397人	177人	7,448人	

※2 基幹定点医療機関(約500カ所)からのインフルエンザによる入院患者の届出数。

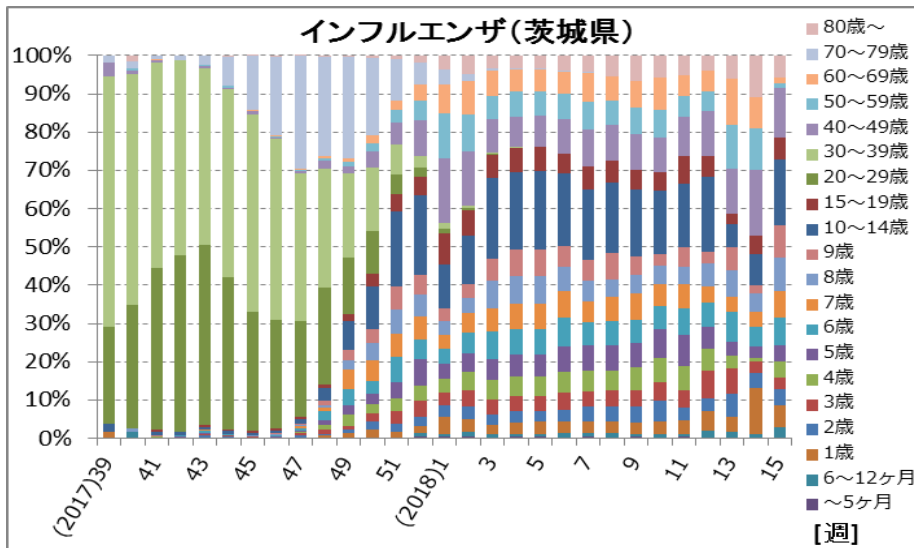
【参考資料】

《過去5シーズンと今シーズンの比較》



今シーズンは、平成29年第48週に流行指数が1.28に増加し、流行入りとなりました。その後、第52週に注意報が発令され、平成30年第2週には警報が発令されました。ピーク時には51.71（第5週）となりましたが、第11週には警報解除となりました。昨シーズンおよび過去5シーズン平均と比べて大きな流行となりました。

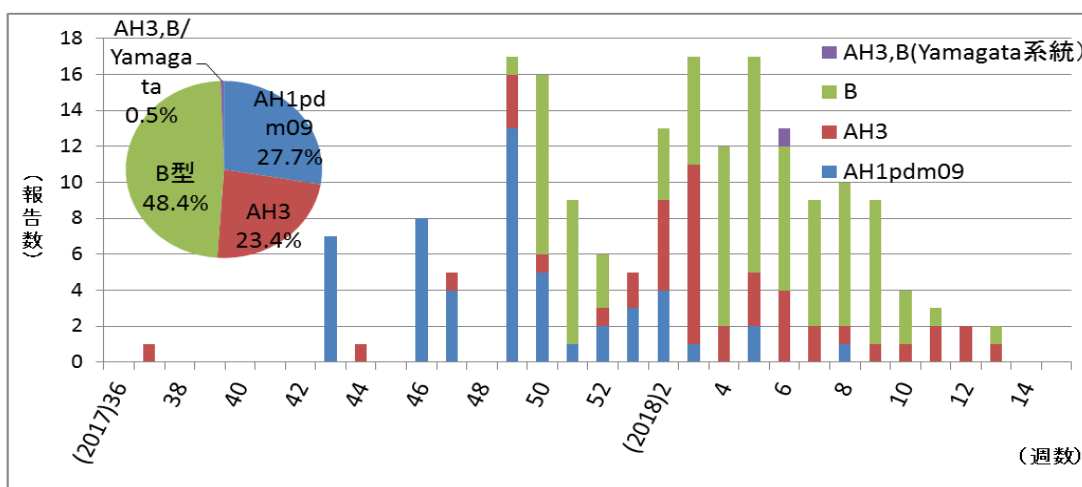
《週別年齢別報告割合》



今シーズンは、年齢別に見ると、流行入りまでは9割以上が成人でしたが、その後19歳以下が増加し、ピーク後は19歳以下が7割以上を占めました。
※学級閉鎖・集団発生の情報は、「茨城県インフルエンザ様疾患による学級閉鎖等の措置について」を参照ください。

《病原体検出状況》

2018年4月15日現在



今シーズンは、B型が48.4%と最も多く、次いでAH1pdm09が27.7%、AH3（香港型）が23.4%、AH3（A香港型）とB型の混合感染例が0.5%検出されました。

（昨シーズンは AH3（A香港型）：75.6%、AH1pdm09：8.1%、B型：16.3%）

《備 考》

インフルエンザの予防について

～ひろげるなインフルエンザ！ひろげよう咳エチケット！～

◆ インフルエンザにかからない、うつさないための対策

☆帰宅時の手洗い

手にウイルスがついたままにしない
ことが大切です



☆咳エチケット

咳やくしゃみをする時は
鼻や口をおさえましょう
マスクをしましょう



☆予防接種

◆ インフルエンザにかかった場合の対応

- ・ 早めに医療機関を受診して治療を受けましょう。
- ・ 安静にして、休養をとりましょう。特に、睡眠を十分にとることが大切です。
- ・ 水分を十分に補給しましょう。お茶やスープなど飲みたいもので結構です。
- ・ 一般的に、インフルエンザを発症してから3～7日間はウイルスを排出すると言われてい
ますので、その間は外出を控えましょう。



茨城県感染症情報センター
(茨城県衛生研究所企画情報部)
TEL 029-241-6652